

五歳児の記録

余録

二年前より、「五歳児の記録」として、五歳児の一年間の実際保育の記録を掲載してきた。この数か月、掲載を休んでいたのも、よく知らない方もあるかもしれないが、多くの方々から反響をいただいた記録である。ほとんど毎日の一年間にわたる記録であるので、膨大な量にのぼるものである。本号には、大戸美也氏が本誌に発表された記録を、保育短大の学生の教育に活用された例を掲載したが、なまの記録であるので、いろいろの形で利用していただけたらと思う。次号からまた継続掲載する予定である。

この記録をめぐって、語りあったことの中から、一つ二つご紹介しよう。

○子どもが自発的にはじめた活動は、何段階も先が展開していくが、課題がきめられたものは、二段階くらいしかのびないこと。前者の場合は、子どもが自発的にはじめた活動と許容する段階から出発し、教師も子どもの考えを理解しようとつとめている。そこから次

の段階に展開し、子どもの活動がひろがり、さらにさきの創造的な活動が生まれる。そこにはどこで終わらなければならないという限界がない。子どもと教師の考えがひろがる限りつづいていく。(例六十五巻 三号 時計つくりの記録)

それに対し、課題がきまったものだと、作りはじめるときに目標が与えられ、つくりはじめると創意が発展するような許容があるが、はじめにきめた目標に到達すると、そこまで終わってしまう。(例六十四巻 六号 鯉のぼりの記録)

○一日の子どもの活動の展開には経過を必要とする。子どもが朝、幼稚園に登園してからしばらくの間は、子どもは友だちどううまくやっていたいけるかどうかためしたり、朝、幼稚園にくるまでに起こった不快なことの感情を清算したり、というようなことにエネルギーが費やされて、遊びそのものの展開は少ない。遊びとして創造的に展開し発展するのは、午前中の後半である。午前の前半と後半とをどのようにつなげるかは、幼稚園の一日の展開に重要な問題である。「朝十時半の意味」を実質的に研究する必要がある。(T)

幼児の教育 第六十六巻第十一号

十一月号 © 定価八〇円

昭和四十二年十月二十五日印刷
昭和四十二年十一月一日発行

東京都文京区大塚二ノ一ノ一
お茶の水女子大学附属幼稚園内

編集兼 津 守 真
発行者

東京都文京区大塚二ノ一ノ一
お茶の水女子大学附属幼稚園内
発行所 日本幼稚園協会

東京都板橋区志村一ノ一一
印刷所 凸版印刷株式会社

東京都千代田区神田小川町三ノ一
発売所 株式会社 フレーベル館
振替口座東京一九六四〇番

◎本誌御購読についての御注文は発売所 フレーベル館 にお願いたします